

【青熊将と恋する若妻　なんか変なのが嫁に来た。　発売記念ショートストーリー】

わたし、フランソワ・レーヴンは明日、お嫁に行きます！

ずっとずっと、ずっとずっとずーっとお慕いしていた、バルトロメイ・ベルガルザード様のお嫁さんになることができるのです！　ついにです！　明日です！

わたしはこんなにも幸せで良いのでしょうか！　夢ではありませんよね！　ほっぺを抓ります！　痛いです！

思えば初めてヘレナ様に声をかけたのも、バルトロメイ様に少しでも近付ければと考えたからです！　ヘレナ様には後宮で鍛えていただきました！　全ては、ガングレイヴ帝国八大將軍の一人にして、大陸最強の英雄である『青熊将』バルトロメイ様に相応しい妻になるためです！

頑張りました！

毎日、一生懸命鍛練を頑張りました！

「精が出るな、フランソワ」

「ヘレナ様！」

今日も今日とて、わたしは後宮の中庭で弓を引いています！

既に何人かの側室の皆様は、後宮を出て皇帝陛下から与えられた結婚相手の家に向かっていきます！　わたしは明日です！

親友のクラリッサも、既に後宮を出ていますのでさみしいです！

「今日くらいは、休んでも良かったのではないかと？」

「いえっ……！　そ、その、落ち着かなくて！」

「まあ、そうだろうな。ついにバルトロメイ様の妻になるのだからな」

「はうっ！」

あうあうあうあう。

ヘレナ様に言われて、なおさら実感が増してきました！

そうなのです！　わたしはバルトロメイ様の妻になるのです！　ああっ！　これほど幸せなことがあるのでしょうか！

ですけど、嬉しいと同時に不安です！

わたしの嫁入りを、バルトロメイ様は歓迎してくださるのでしょうか！

「あ、あのっ、ヘレナ様！」

「どうした？」

「わ、わたしは……バルトロメイ様に、相応しい妻に……なれる、でしょうかっ！」

「ふむ……」

ヘレナ様が顎に手をやって、そう唇を尖らせます！

わたしなんか、バルトロメイ様に相応しいとは思えません！ ちっちゃいですし！ 胸もぺたんどですし！ まだまだ弱いですし！ まだ十四歳ですし！

ですけど、バルトロメイ様を愛する気持ちだけは誰にも負けません！

「私には、よく分からんな」

「で、ではっ……！」

「フランソワは、どうすればバルトロメイ様に相応しい妻になれるんだ？」

「えっ！ そ、それは……！」

困りました！

考えていませんでした！

確かにわたしは、常にバルトロメイ様に相応しい妻になるために！ を台言葉に頑張ってきました！

ですけど、どうしましょう！

どうすれば相応しい妻になれるのか分かりません！

「あ、あうっ……！ ど、どうしましょう！」

「うむ、フランソワ。いいことを教えてやろう」

「は、はいっ！ ヘレナ様！」

「私の知る限り、バルトロメイ様にはこれまで浮いた話は何一つない。恐らく、これまで女性関係など一度もなかっただろう。フランソワは嫁入りをすることに緊張しているかもしれないが、恐らく向こうも緊張しているはずだ。逃げられはしないだろうか、とな」

「そんな！ 逃げるだなんて！」

何故逃げなければいけないのですか！

バルトロメイ様はお優しいですし、凛々しくて格好いいのに！

「フランソワ、お前は十分に、バルトロメイ様に相応しい妻だ」

「そ、そうなのでしょいか！」

「ああ。バルトロメイ様を愛する気持ちだけは誰にも負けないだろうか？」

「勿論です！」

「ならば、フランソワ以上にバルトロメイ様に相応しい妻はいない」

「そんな！

では、今まで一生懸命鍛えてきたことに意味はなかったのですか！

強くなったからいいですけど！ これからも鍛練は続けますけど！

「色々と嫁入りをするので、困ったことがあるかもしれない。そういうときは、私のところ来い」

「そんな！ でも、ヘレナ様は皇后ですし……！」

ヘレナ様は、皇帝ファルマス様の正妻となる、と先日発表されました！

つまり皇后陛下です！ 物凄く偉い人です！

わたしにとっては、天の上の人になってしまったのです！ そんなヘレナ様に、軽々しく相談だなんて！



「私にとって、フランソワは可愛い弟子の一人だ。そんな弟子が悩んでいるのならば、力になるさ」  
「あ、ありがとうございます！」  
「あの熊親父のことだ。何か戸惑って妙なことで口走って、フランソワを傷つけるかもしれないからな。そういうときは、私に相談するといい」  
「はいっ！」

バルトロメイ様は熊親父ではなく青熊将なのですけど！  
ですけど、安心です！

わたしにとって、ヘレナ様は師匠です！ 先生です！ でも、皇后陛下になられるとのことでしたので、もう遠い人になってしまったのだと寂しく思っていました！

でも！

ヘレナ様は、いつでも来ていいと言ってくれました！ ありがたくて嬉しいです！

「それから、名乗りを改めなければならんな」

「えっ！」

「もう、フランソワはフランソワ・レーヴンではないのだ」

「はうっ！」

そう……そうです！

わたしの家名はレーヴンです！ ですけど、嫁入りをした場合は夫の家名を名乗ることが決まっていますのです！

つまり、わたしの家名も、バルトロメイ様と同じになるのです！

そ、そそ、そして、わたしの新しい名前はっ！

「フランソワ・ベルガルザード」

「はうっっ！！！」

顔が茹だるみたいに熱いです！

どきどきします！ わたしとバルトロメイ様が、より夫婦になった感があります！

そう、わたしは！

フランソワ・ベルガルザード！

「……フランソワ」

「はいっ！」

「……似合わない」

「そんな!？」

ヘレナ様、ひどいです！

『青熊将と恋する若妻 なんか変なのが嫁に来た。』

© 笥千里・東条さかな

